

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、仮設での最後の雛祭りを開催した八木山オリーブの会の様子と、2011年6月17日からはじめた「ふれあい茶の湯」がまもなく100回目を迎えようとしている松木町教会 愛の支援グループのスタート時の様子をご紹介します。

東日本大震災から丸4年が経過しましたが、まだまだ多くの支援を必要としています。どうぞ今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

仮設での最後の雛祭り

八木山オリーブの会 入江 和子

2月にしては暖かな2月25日、私たち八木山オリーブの会は、亘理・旧館仮設住宅を訪問しました。

2012年3月29日に訪問したのが始まりでしたが、今回で73回目となりました。その時も雛祭りが近いというので雛祭り用のお花を持参した記憶があります。

始めてから3年、また巡ってきた桃の節句。「生け花」の講習会も7回目。仮設住宅の皆さまも慣れたもので、さっさと活けてしまわれました。

会場が花いっぱいになり、暖房の効いた会場では、蕾がふっくらとふくらみはじめ、一気に華やぎました。気持ちも華やぎ、自然に、「早春賦」など声をそろえて歌い始めました。

次から次へと歌っていくうちに、「東京音頭」もでてきました。思わずうる覚えながらの盆踊り。オリーブの会員も被災者の方々も一緒になって踊りました。「炭坑節」「掘って、掘って、また掘って！！ 担いで、担いで…」と皆で思い出しながらの踊りは、そろわないところが、また皆の笑いを誘いました。

最後に「亘理音頭」。「忘れてた！」という方々も徐々に思い出し、身振り手振りもしなやかに！?



踊り、大笑い。楽しかった！ しっくりとした一体感を味わい、幸せな気分になりました。

私たちの活動もあと2回。自分たちがここまで続けてこられた恵みを感謝しつつ、ここで出会った方々の今後を想い、祈ります。

「大丈夫、きっと皆様はこれからも頑張っていける。」

「新たな地での仲間づくりもされていくにちがいない」と。

一服の抹茶から「ほほえみ」と「会話」が…

カトリック松木町教会 愛の支援グループ 鈴木 キミ子

あの日から…

震災当時、私たちは、テレビからの惨状を見、祈ることしかできませんでした。福島市も断水、ガソリン不足、店には食品がなくなり、屋内外の片づけに追われていました。

しかし、私たちは自分の家に住み、後片づけができ、温かいものを食べて、夜になると布団に寝ている。そのような中、津波や原発事故により、遠くへ避難され苦しんでいる方々のことを思い、「祈り」から「ささやかな支援活動」へ歩み始めたのでした。

5月連休後のボランティア減少のニュースから、相馬市の流出物写真洗浄へ向かい、軽労働であっても、とても心の痛むことが多い作業でした。その間にも、ここカトリック松木町教会から車で30分ほどの福島県あづま総合体育館避難所へ向かいました。そこで数日が経ったころ、避難されている方々に温かい一服の抹茶を両手に差し上げることができたら、少しは癒しのお手伝いができるのではないかと思います、心のケアとして「ふれあい茶の湯ボランティア」をスタートしたのでした。そして、一服の抹茶から「ほほえみ」と「会話」が生まれたのです。

私たちが今も続けている「もてなし傾聴」ボランティアの原点は、ここにあったのです。

これからも寄り添い続けたい

現在も私たちが継続して支援している福島市宮代仮設住宅には、当時、まったく支援がありませんでした。私たちと宮代仮設住宅の方々との出会いは、浪江町役場事務所からの紹介でした。

福島市には、12カ所の仮設住宅があり、その内、7カ所が浪江の方々です。宮代仮設住宅には、独居、高齢者が多く、現在も子どもたちは一人も住んでいません。

私たちは、一服の抹茶から「ほっこり」となってくださるその笑顔、毎日お元気で過ごしていただけますように、そして、いつの日かふる里へ、また、新しい光に照らされるときまでお元気でいてほしい。80歳、90歳の方々にとっての自立とは何でしょうか。笑顔と元気から生まれる「心の復興」とも言えるのではないのでしょうか。ふる里を離れて避難生活を強いられている高齢者（自分の歴史がある）の方々のふる里への想いと悔しさ、悲しさは計り知れないことでしょう。

これからも、神様から必要とされる間は、寄り添い続けたいと思います。

